

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



第13回 環境フォーラム

主催 名古屋産業大学・尾張旭市・実行委員会
 連携協働 ESDI ねじ世界会議あり 尾張旭市支援実行委員会



日時 平成25年12月14日(土) 13:30~16:00
 場所 名古屋産業大学文化センター 大ホール

プログラム
 開催挨拶 清水幸丸氏
 (環境ネーラム実行委員
 会委員長・名古屋産業
 大学教授)
 基調講演
 「尾張旭市の環境と
 防災について」
 菅井 啓世氏
 (名古屋産業大学教授)
 講演
 「尾張旭市の環境行政に
 ついて」 伊藤 成人氏
 「ESDに關するユネスコ
 世界会議について」
 吉田 英生氏
 (尾張旭市環境部ESD会議
 推進担当事務局長)

「子ども達の自然環境活動
 とデジタル化教育について」
 子ども達はワールド活動が
 室内でのD&R活動で忙しい
 利用性で言えば、いかにデジタルは
 便利であるか、これからのデジタル教
 育を取り入れるなら、アログ70%
 デジタル30%の割合で教育を推進
 していくべきである。
 脳の発達を考えると、創造性と自立心
 を育てるためにはアログ教育をしか
 りやることで案外とつづける。
 アログ教育は屋外の動植物の観
 察や森や川海での観察は非常に
 大切である。ヴァーチャルでは感動も感
 激もなく、人の優しさ、涙や悔しさが
 湧いてくることも人を育てるには要
 なる。汗をかいて田圃で稲刈りに
 なるのも、それが大切なのです。

フォーラムの
 講演者
 右から三人
 目代表



子ども環境
 のD&R
 の説明

